

アンケートの集計結果（概要）について

1 小・中学生の発表（プレゼン）について

○「とてもよい」76% ○「よい」22% ○「よくない」2%
＜主な感想＞

- ・児童生徒が、ふるさとについて本気で学ぶことが本当に大切であり、素晴らしいことであると再確認できました。
- ・大玉村を知ることが、更に大玉村を発展させることに繋がっていくと思います。子どもたちがそれに関わっていくことは大切なことだと実感しました。
- ・子どもたちの発表から、ふるさとへの愛着心を強く感じました。故郷のことをもっと知ろう、故郷に貢献することを考えようという行動はとても崇高なものであり、自分の故郷のことを詳しく知らない私にはうらやましく、とても頼もしく思えました。
- ・地域を盛り上げたいという子どもたちの思いが伝わりました。
- ・各学校の実践内容が丁寧にまとめられ、わかりやすい発表になっていました。担当された先生方、本当にお疲れ様でした。
- ・来年こそ改善センターでの開催を願わずにはいられません。動画配信は、それはそれで素晴らしい出来映えで子どもたちのメッセージに心打たれましたが、やはり対面でのやり取りを体験させたいと思いますし、その方が子どもたちの良さがもっと伝わる気がします。

2 今日の発表を聞いて、大玉村のために自分でも何かやってみたいと思いましたか。

○「とてもそう思う」28% ○「そう思う」66% ○「あまり思わない」4% ○「思わない」2%

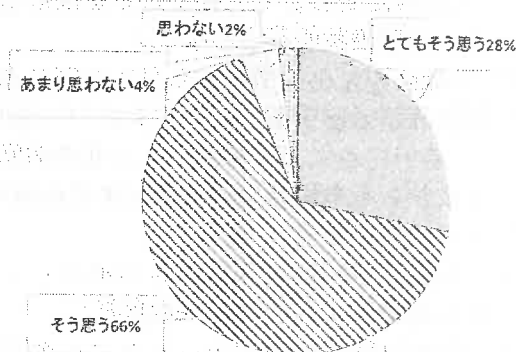
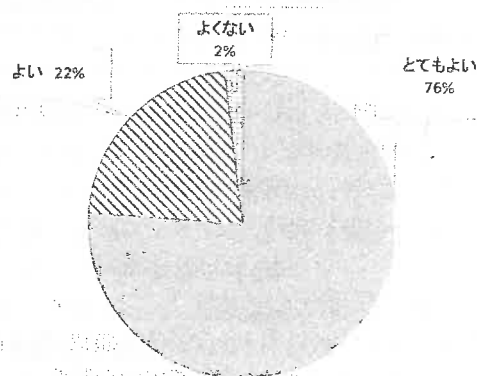
＜やってみたいこと（魅力を生かすために、課題を克服するために、学校と地域と一緒に等）＞

- ・「おおたま学」などを活用して村の自然や文化、農業（産業）などの理解を深め、村への愛着や誇りを持たせたい。
- ・児童生徒に村のたくさんの多様なロールモデルに出会わせたいと感じました。
- ・新たに何かをするというよりも、コロナの影響で今までの取り組みができていないので、確実に実践することに微力ながら貢献したいと思います。
- ・親と子どもで大玉のためになにかやるのも面白いと思う。
- ・ゴミ拾いについての発表がありましたが、実際にゴミ拾いをして5kgをこえる量のゴミがあるとは思いませんでした。最近テレビでもゴミ拾いの様子を放送しているときがありますが、その映像を見ても本当にたくさんのゴミが落ちていることがわかります。自分の身の回りでも同じようなことが起きていると今回の発表を聞いて感心したので、私自身もゴミを見つけたら拾うことを意識しつつ、ポイ捨てをしないよう、自分の周囲の人から呼びかけていきたいと思います。
- ・自治会や役場などの関係者と一緒になって、一つでも実現できることを考えていけると良いなと思いました。
- ・大玉村の良さや特産などをもっと良く学んで、いろいろ買ったりイベントに参加してみたりしたいと思います。

3 今後のCSとして取り組んで欲しいテーマ等

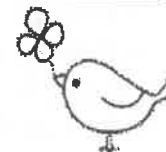
- ・テーマは継続する。子どもたちの生き生きした活動が楽しかった。多くの人に見てほしい。
- ・地域交流をテーマとして、豊かな体験や交流を通して社会性や人間性を育んでいきたいです。
- ・メディアコントロールについて
 - ・大玉村の地域課題についてなど、村民と一緒に考える。
- ・平和について
 - ・村議会や村役場と子ども達が交流するようなイベント
- ・学校で行った学習や発表の様子などを録画しておき、それを資料としながらディスカッションをする。

3月8日現在



おおたま学園コミュニティ・スクール便り

令和4年3月15日発行 No.30 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会
（事務局：大玉村教育委員会内 連絡先：48-3138）



第3回コミュニティ広場（第13回教育フォーラム）を開催しました ～ YouTube配信 ～

本年度もコロナ禍のため、第3回コミュニティ広場をYouTubeによる配信という形で実施しました。2月26日（土）から3月6日（日）までの期間中、各小・中学校の発表を村民・保護者の皆様をはじめ多くの方々にご覧いただきました。

子どもたちが学習している大玉村の魅力やこれからの大玉村をどのようにしていきたいか、大玉村のために何ができるか等について発表を行いました。今号ではその概要とアンケート集計結果をお知らせします。

おおたま学園CS委員会会長あいさつ 会長 伊藤 和弥

いつもおおたま学園CS委員会の活動にご協力にいただきましてありがとうございます。本年度も新型コロナウイルスの影響で動画配信の形で第3回おおたまコミュニティ広場を開催いたします。今回のコミュニティ広場では、大山小学校、玉井小学校、大玉中学校の代表の皆さんが大玉村のこと、伝統文化のこと、地域貢献のこと等について発表いたします。楽しんでご覧いただければと思います。

今後も地域と共に歩む学校を目指して活動していきたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

大玉村教育委員会教育長あいさつ 教育長 佐藤 吉郎

今年で3回目になりますこの催しを開催できますこと、本当にありがとうございます。CS委員の方々のアイデアと企画により、今年もこういった形で発表会を実施することができました。各小・中学校の児童生徒の皆さんには総合学習で学んだことを思いっきり発表していただきたいと思います。

また、ご視聴いただく皆さま、動画の良さは繰り返し何度も見ること、それから多くの人に見ていただけるということ等のプラス面もあります。そんな点を積極的にご活用いただきたいと思います。

今回は第2部のフリートークができませんので、アンケートに皆様のご意見やご感想をお書きください。それを集約して、後日皆さんにお届けしたいと思います。今回のこのコミュニティ広場を機に、大玉村について皆で考えていく機会にいただければと考えております。よろしくお願いいたします。

【小・中学生の発表（提案）の概要】

1 大山小学校5年生の発表より 「おしえてあげたい 大玉村のひみつ」

→ 下記のことをポスターやCMをつくって多くの人に知らせたい！

(1) 野内与吉氏について

- ・ペルーのマチュピチュ村の初代村長を務めたすごい人。
- ・世界遺産「マチュピチュ遺跡」を自分の庭のように歩き、ホテルを開業したり、水力発電所を造ったりした。
- ・大玉村とマチュピチュ村は友好都市になった。

(2) 安達太良山の魅力について

- ・大自然が広がり、春夏秋冬の景色が美しい。（水、紅葉など）
- ・米や野菜がおいしいのは安達太良山のお陰。
 - ・昔の噴火によって質の良い土が大玉の土地に行き渡った。米がおいしいのは土壌が良いため。
 - ・雪解け水や強い風が野菜を美味しくしてくれている。

(3) 水のおいしさについて

- ・おいしい米ができるのはおいしい水があるお陰である。「大玉コーヒー」にも使用されている。
- ・特に「遠藤ヶ滝」「三日月の滝」に行くと水的美しさが際だっている。（見ただけでも分かる）

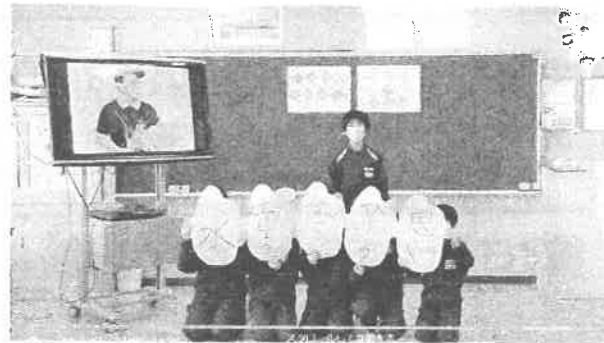
(4) 大玉の米のおいしさについて

- ・「水」「土壌」「気候」「肥料」がとても良く、安心・安全な美味しいお米をつくろうと努力する農家



の方々の「熱い思い」がある。

- ・肥料を常に改良し、土地を大事にしている。
- ・農薬はなるべく使わないようにしている。
- 大玉の米「天のつぶ」が24年ぶりに天皇陛下への献上米に選ばれた。(米所の)新潟からわざわざ買いに来る人もいる。
- 美味しい米を使って「天田のせんべい」を作った。(会津の山塩を使用)



子ども大使になって、ふるさとのよさや秘密をもっと学び、他に広めていきたい!

2 玉井小学校6年生の発表より「私たちのふるさと大玉村～田植踊・文化・人々との関わりから～」

(1) 本揃の田植踊

- 300年ほど前から行われており、稲作の過程を表現した踊りである。
- 昭和30年を境に行われなくなったが、昭和49年に保存会ができ復活した。
- 玉井小学校では平成24年から保存会の方々に習っている。(学習発表会で披露)
- 田植踊は、途切れることなく引き継いでいきたい伝統で、大玉村の歴史の一つである。

- 田植踊をもっと多くの人に知らせるための活動をする。
 - ・5年生の引き継ぎ会から学習発表会本番に至るまでの様子を写真や動画に撮っておき、それらを編集して一つにまとめPR動画を制作する。(中に田植踊の歴史や役の説明、自分達の思いを加えたりなど工夫する) → 学校内外のあちこちで流して興味をもってもらう。



(2) 修学旅行から学んだこと ～会津若松市で学んだことを大玉村でどのように生かすのか～

- 日新館で「什のおきて」について学んだ。大玉村にもほしい。(ex.村内で会った人には挨拶する等)
- フィールドワークをして、会津若松市では地域の歴史や文化が大事にされているなど感じた。(＝歴史や文化に誇りを持っている) 大玉に住んでいる私たちが、ふるさとの歴史や文化について学ぶ企画がほしい。(ふるさとホールで企画展)

(3) 慈英士さん(マチュピチュの観光大使)から学んだこと

- 世界の子どもたちにボクシングを教える活動をしている。コロナの影響でマチュピチュに留まるざるを得なかったが、村が元気になるようなことを行い、その結果観光大使に任命された。
 - ・コロナで制限されているが、村のためにできることを考えた。(ゴミ拾い、家の田畑の仕事の手伝い等)
- 慈英士さんが大事にしていること
 - ・いつも笑顔でいる。(マスクを外せない今だからこそ表情を豊かに、笑顔で挨拶) → 友達ができる。
 - ・友だちを大切にすること(助け合うこと) ・良いことをすると自分に返ってくる



(4) 松本悠以さん(イラストレーター)から学んだこと

- 大玉村には人や物に温かさや優しさがある。(笑顔で挨拶、困った時に助けてもらったこと…あたりまえの大切さ)
- 大玉村には豊かな自然や生き物の多様性がある。(都会にはないもの。誇れるもの。環境への優しさ)
- 大玉村には伝統文化がある。(田植踊、馬場ザクラ等)

大玉村を元気に、活気づけていく活動を心がける。大玉村への恩返しになるような活動をしたい!

3 大玉中学校1・2年生の発表より「大玉中学校の地域貢献の取組」

生徒会スローガン Challenge & Challenge 「あいさつ」「主体性」「貢献」

大玉中を活発にするためには、当たり前の仕事や既存の活動にとらわれない新たなことへの挑戦が必要

(1) 大玉村ゴミ拾い活動(3年 総合的な学習の時間)

- 3年生を中心に環境問題について考え、大玉村は「日本で最も美しい村」連合に加盟している村でもあるので、中学校周辺のクリーン活動を行った。(地域の方にも参加いただいた)
 - 成果<燃えるゴミ1,550g、燃えないゴミ3,680g(プラスチック・ペットボトルが全体の68%)、空き缶140gが集まった。>
- 美しい村に生まれたことは誇りである。これからもそれを維持するためにできることを実践する。

(2) 心でつながろう虹の架け橋郵便運動

- コロナ禍で地域の関係が希薄になっている。地域とのつながりを深めたい!
- 対象は、村内在住の一人暮らしの高齢者、総合福祉センター「さくら」の利用者
- 少しでも地域とのつながりを感じ、元気になってほしいという願いを込めた葉書【暑中見舞い】を届ける。(イラスト、メッセージを工夫する)
- 受け取った方から「初めて中学生から葉書をもらい嬉しかった。」「温かい気持ちになれた。ありがとう。」等の声をいただいた。とても嬉しくて充実感を得ることが出来た取り組みだった。これからも、こんな時だからこそできることを模索し実践していきたい。



(3) 赤い羽根共同募金活動

- 社会の変化の中で誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう様々な地域福祉の課題解決に取り組む団体を応援する。→大玉村の一人暮らしの高齢者や困っている人を助けたい!
- いろいろな工夫を凝らした募金活動を行い募金を社会福祉協議会を通して困っている方に寄付した。これからも地域の福祉活動推進に貢献していきたい。

(4) アルミ缶回収

- 大玉中の伝統ある活動(奉仕の心、主体性を高める。大玉村への貢献)
- 校内放送で呼びかけ、ビラの配付、強化週間の設定 → 1,262個集まる。その収益で地域包括センターに電波時計を寄付。

(5) 花畑運動

- 花壇やプランターに花を植え、昇降口を花で華やかにすることにより、挨拶を気持ちよく交わし登校できるようにしている。
- 春に備えて、虹色スマイルやチューリップ、スイセン等できれいに昇降口を彩ることができるよう準備した。→ 私たちの活動を知ってもらいたい。寒い冬コロナ禍に耐え、花を見て少しでも気持ちが温かくなるよう、プランターを役場、改善センター、総合福祉センターさくらに寄贈した。



- 前述の活動は、地域のため、学校のため、身近な誰かのために取り組んできたこと。
- 私たちは多くの人に支えられ、つながりながら育てられている。
- ふるさとの大切さや素晴らしさを感じ、村民であることに誇りを持つことができた。
- 地域貢献を通して私たちが出した答え → 「誰かのためにやったことが自分達の成長につながる」